

「出題の意図」

選抜区分	2022年度（選抜区分：総合型選抜 1次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感度が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。1次選考の集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを的確に表現できているか、また話し合いに臨む姿勢などを試した。</p> <p>2022年度総合型選抜1次選考における集団討論では、事前に受験生に同一の課題を示した。課題の内容は、「現在の日本社会における多様性の実現を阻む要因としてどのようなものが挙げられるか話し合い、結果をまとめてください。」であった。</p> <p>出題の意図としては、上記評価ポイントに加え、現在の日本社会が直面する課題、特に多様性の実現を取り巻く諸課題に対しどのような認識を有しているか、また、極めて多岐にわたる論点が存在する「多様性の実現」に関する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、ということを見定めるところにあった。入学後、「地域創生」の担い手としての使命感を保持しつつ、地域の方々と有意義な協働を進めていくための基本的なコミュニケーション能力を有しているか、という点を重要な評価基準とした。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2022年度（選抜区分：総合型選抜 2次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：小論文・個別面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。2次選考の小論文では、地域創生にも関連する社会課題に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>■小論文について</p> <p>今回の小論文試験の出題文は、地域創生に関連すると考えられる文章の中から、次の2点を念頭に置きながら、選定した。1点目は、地域創生においては地域社会が直面する課題を的確にとらえる力が必要であると考えることから、課題の構造を読み解くヒントを得られるような文章であること、2点目は、一般的な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は橋木俊詔（2016）『新しい幸福論』岩波新書、の該当箇所を出題文として選定した。</p> <p>設問は「以下の文章を読んで、日本人が格差の存在を容認するようになった理由を筆者はどう考えているか400字以内でわかりやすく述べよ。」とし、筆者の主張をまとめる作業を志願者に求めた。やや複雑な構造となっている文章を読み解き、人間の心理の特性を踏まえたうえで集団的格差の肯定等に関する論点を的確かつ論理的にまとめられているかが重要となる。</p> <p>文章の流れに沿って重要な点を抜き出し、それらをつなぎ合わせることで、ある程度妥当な答案を作成することができる設問であったが、上述のとおりやや複雑な構造となっており、筆者の主張が特に述べられている箇所を的確に読み解けるかがポイントとなった。保守化との関連性や、集団的格差の肯定に関する点を含めて論じているものに高い評価をつけている。</p> <p>■個別面接について</p> <p>これまで主体的に活動してきたことをわかりやすく説明できるか、地域創生への強い関心を有しているかが評価ポイントの一つであった。また、面接官との質疑応答において、質問の意図を理解した上で自らの考えを適切に表現できているかを評価とした。</p>